

【一般的な播種量】◎苗箱一枚あたりの重量130g～180g(乾燥粉) ◎10aあたりの重量3kg～4kg

## 各種たねもみ特性一覧

水稲うるち米 ※本表のデータは地域、気候、土壌、その他栽培条件によって異なります。  
※本表の出穂期、成熟期の月日は京都市で6月10日田植えの場合で地域、気候、土壌、田植え時期その他栽培条件によって異なります。

品 種 名	来 歴	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂発 芽性	耐倒 伏性	耐 病 性		品質	食味	適 地	栽培上の注意点
						いもち	紋枯				
あきたこまち	コシヒカリ × 奥羽292号	8.5	9.9	やや難	中	やや弱	強	上中	上上	東北中南部の 平坦地	種子の休眠性が強いので種子予措、特に催芽ムラのないように注意する。稈は太いが、耐倒伏性は不十分。収量は穂数依存度が大きい。低温発芽性は弱い。
あきだわら	ミレニシキ × イフヒカリ	8.22	10.6	やや難	やや強	弱	やや弱	中上	上中	関東・北陸以西	多肥で多収となるが、いもち病に弱く品質低下を招くので極端な多肥は避け防除を徹底する。外観品質はコシヒカリよりやや優れ、食味はコシヒカリに近い良食味である。
あさひの夢	あいちのかおり × (月の光/愛知65号)F1	8.22	10.10	やや難 ～中	強	中	やや強	上中	上上	関東以西の山間部 ～平坦地	縞葉枯病抵抗性に付随する穂いもち抵抗性を有するが、対抗性崩壊の危険性もあるので、いもち病発生が多い中間山間地への導入は避ける。強度の高温や低温育苗時や移植直後に白化苗が発生しやすいので、温度管理に留意する。
キヌヒカリ	(収2800×北陸100号)F1 × 北陸96号	8.10	9.22	やや易	強	中	中	上中	上上	北陸・関東以西の 平坦地	縞葉枯病に弱いので、常発地での作付けは避ける。いもち病、白葉枯病等に対しては、一般品種と同様に適期防除に努める。また、穂発芽性が「やや易」であるので、刈り遅れに注意する。
きぬむすめ	キヌヒカリ × 祭り晴	8.25	10.1	中	中	中	中	上下	上中	関東以西の平坦地 および準平坦地	穂発芽性、耐倒伏性とも「中」なので、極端な多肥栽培は避け、白葉枯病、縞葉枯病の常発地帯での栽培は避ける。
コシヒカリ	農林22号 × 農林1号	8.10	9.22	難	弱	弱	中	上中	上上	関東・北陸以西～ 九州の平坦地	葉色の淡い長稈品種で倒伏しやすいため、元肥の窒素を控えめにし、穂肥も生育に応じて加減する。いもち病に弱いので、防除を徹底する。
つきあかり	かばしこ× みずほの輝き× 北陸208号	8.6	9.12	難	やや強	中	－	上中	上中	東北中南部・北陸 および関東以西 (あきたこまち栽培可能地域)	腹白が出やすいため、過剰な穂肥、早期の落水および刈り遅れは避ける。縞葉枯病には「罹病性」であるため、常発地での栽培では防除を徹底する。
てんこもり	富山36号 × と系1000	8.14	9.28	難	強	やや強	やや弱	上上	上上	東北部～九州	コシヒカリより収量性が高く、特に直播栽培で多収。玄米品質は安定して高く、基白・背白粒の発生が少ない。窒素確保が容易で、籾数過多になり易いため多肥栽培は避ける。紋枯病にやや弱いので注意する。
にこまる	は系626 (西海232号) × 北陸174号	8.30	10.13	中	中	やや弱	中	上中	上上	東海以西の平坦部	栽培管理は「ヒノヒカリ」に準じて行うが、苗の伸長性が高いことから育苗時及び本田移植後の苗徒長に留意し、初期生育を抑え気味に管理する。
日本晴	ヤマビコ × 幸 風	8.23	10.7	中	中	中	中	上中	上中	東北部から 温暖地の平坦肥沃地 ～暖地の中山間地	ごま葉枯病や秋落ち抵抗性に弱く、やせ地の適応性に欠ける。品質の安定性は高い。
はえぬき	庄内29号 × あきたこまち	8.8	9.13	中	強	中	やや弱	上上	上上	東北部の平坦地	種子の休眠性が強いので、浸漬日数を多めにとり催芽を充分行う。初期成育を確保し、十分な籾数確保に努めるとともに、刈り遅れに注意する。
ひとめぼれ	コシヒカリ × 初 星	8.8	9.11	難	やや弱	やや弱	－	上中	上中	東北平坦地～ 温暖地山間地	種子の休眠性が強いので、浸漬日数を多めにとり催芽を充分行う。栽培密度や施肥に配慮し、モミ数の確保につとめる。
ヒノヒカリ	黄金晴 × コシヒカリ	8.29	10.12	難	やや弱	やや弱	中	上下	上上	近畿以西の 温暖地～平坦地	適度な籾数確保のため、穂肥の施用時期は出穂20日前以降とする。耐倒伏性、いもち病、白葉枯病に弱いので注意。
やまだわら	泉348 × 関東192号	8.23	10.7	やや易	強	やや弱	－	中中	中上	関東・北陸以西	業務用多収性品種。除草剤成分のペンソピクロン、メソトリオン及びテフリルトリオンに感受性が高いので、それ等を含む除草剤は使用出来ない。縞葉枯病常発地には適さない。
みずほの輝き	北陸174号 × 中部98号	8.21	10.2	中	やや強	やや強	－	上下	上中	北陸および 関東以西	粒が大きいので、急激な乾燥をさけ、同割れの発生に注意する。穂発芽性が「中」で、縞葉枯病には「罹病性」であるため、適期刈り取りに努める。外観、食味良く加工米飯、おにぎり等への加工利用に期待される。

## 各種たねもみ特性一覧

低アミロース米 ※本表のデータは地域、気候、土壌、その他栽培条件によって異なります。  
※本表の出穂期、成熟期の月日は京都市で6月10日田植えの場合で地域、気候、土壌、田植え時期その他栽培条件によって異なります。

品 種 名	来 歴	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂発 芽性	耐倒 伏性	耐 病 性		品質	食味	適 地	栽培上の注意点
						いもち	紋枯				
ミルキー プリンセス	関東163号 × 鴻272	8.8	9.17	中	やや強	やや弱	やや強	上中	上上	東北部以南 コシヒカリの 栽培地帯	ミルキーQueenに比べ、稈長が短く倒れにくい。収量確保には比較的多肥栽培が必要であるが、極端な多肥栽培は食味が低下し、いもち病が発生し易くなるため避ける。
ミルキー Queen	コシヒカリ MNU処理	8.10	9.19	難	弱	弱	中	上中	上上	関東以南の コシヒカリ 栽培地帯	耐倒伏性がコシヒカリ並に弱いので施肥管理は、コシヒカリ並とし多肥栽培は避ける。また、成熟期の倒伏などで品質を悪化させないよう適期刈りに努める。

酒米 ※本表のデータは地域、気候、土壌、その他栽培条件によって異なります。  
※本表の出穂期、成熟期の月日は京都市で6月10日田植えの場合で地域、気候、土壌、田植え時期その他栽培条件によって異なります。

品 種 名	来 歴	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂発 芽性	耐倒 伏性	耐 病 性		品質	食味	適 地	栽培上の注意点
						いもち	紋枯				
五百万石	菊水 × 新200号	7.29	9.6	難	弱	中	中	上中	－	平坦地から 中山間地	穂肥を重点施用する。根の活力をはかり、登熟がよくなるようにする。倒伏の恐れがあるため、多肥栽培は避ける。

水稲もち米 ※本表のデータは地域、気候、土壌、その他栽培条件によって異なります。  
※本表の出穂期、成熟期の月日は京都市で6月10日田植えの場合で地域、気候、土壌、田植え時期その他栽培条件によって異なります。

品 種 名	来 歴	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂発 芽性	耐倒 伏性	耐 病 性		品質	食味	適 地	栽培上の注意点
						いもち	紋枯				
カグラモチ	F3-249 × 平六糯	8.8	9.23	難	やや中	強	中	上中	上中	北陸～近畿	葉色濃く、草状は直立型であるが特定菌のいもち病に弱いので注意。
こがねもち	信濃糯3号 × 農林17号	8.1	9.7	易	弱	弱	中	上下	上下	東北・北陸・ 関東・東海	穂長は短いが、着粒が密で多収。出穂が遅い割には登熟は早い。多肥栽培は避ける。
ヒデコモチ	大系1076 × ふ系72号	7.24	8.29	中	やや弱	中	やや弱	上上	上上	温暖地平坦部の 地力中庸～肥沃地	穂数が少ないので栽培密度を高める。耐冷性がやや弱いので山間地など、冷水がかりやすい場所での栽培は避ける。また、白葉枯病に弱いので常発地での栽培を避ける。
ヒメノモチ	大系227 × こがねもち	8.8	9.21	易	中	強	－	上下	上下	東北・北陸・ 関東・中国	縞葉枯病に弱いので、常発地での栽培は避けること。穂発芽しやすいので刈り遅れに注意する。
マンガツモチ	F3-249 × 農林糯45号	8.10	9.21	難	やや強	やや強	中	上下	上中	東北～中国・四国	早植えから遅植えまで安定して多収である。早植えあるいは、やや密植にすることが望ましい。稈は強いが、多肥栽培は避ける。秋落抵抗性は弱い。

陸稲もち米 ※本表のデータは地域、気候、土壌、その他栽培条件によって異なります。  
※茨城県4月19日播種

品 種 名	来 歴	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂発 芽性	耐倒 伏性	耐 病 性		品質	食味	適 地	栽培上の注意点
						いもち	紋枯				
ひたちはたもち	関東糯166号 × ゆめのはたもち	7.30	9.3	難	強	強	中	中中	上中	関東	野菜の前作として好適。強稈で耐干性が強く、多収。対冷性がやや強。

麦種子の取扱いを始めました ※7月～9月頃の予約となります。現在は販売しておりません。

品 種 名	種 類	登 録	播種日	出穂期	成熟期	栽培上の注意
ゆめちから	パン用小麦	登録品種	11.5	4.3	6.15	不良土壌環境では、早期に枯れ上がり、収量が低下することがある。超強力小麦としての特性を発揮させるため、蛋白質含量が低くならないように止葉期以降の窒素追肥を行う等の肥培管理に努める。
せときらら	パン用小麦	登録品種	11.1	4.15	6.7	多収のため蛋白質含有率が低くなりがちなので品質評価の基準値の蛋白質含有率を得られるように実肥施用を励行する。
ミナミノカオリ	パン用小麦	登録品種	11.3	4.18	6.9	ミナミノカオリは穂数が少ないため、ドリル播により穂数を確保して増収。出穂10日後の実肥によりパン用として適正な蛋白質含量を確保する。
ふくさやか	めん用小麦	登録品種	11.15	4.15	6.2	収量向上のため、排水対策を徹底するとともに、基肥を従来品種よりやや増やす。蛋白質含有率が適正値になるように晩期追肥を施す。
ファイバースノウ	大麦		10.4	4.22	6.2	耐寒性は強いが、収量・品質を確保するため、中間地では10月中旬に播種を行い、越冬前の生育を確保するとともに、収穫期の前進化を図る。
ダイシモチ	モチ性裸大麦		11.15	4.2	5.18	縞萎縮病抵抗性、うどんこ病抵抗性が十分でなく、穂発芽性も「やや易」なので刈り遅れに気を付ける。
キラリモチ	モチ性裸大麦	登録品種	11.26	4.6	5.20	穂発芽性は「易」なので、適期収穫を徹底する。開花性であるので、赤かび病の防除は開花期に行う。

※登録品種につきましては海外持出禁止となります。(公示(農林水産省HP)参照)



商品紹介ページはこちら ▶